山と花のたより　97号

２００９年７月 10 日　松尾

メールアドレス　tadashi6414@smile.ocn.ne.jp

二上山だより

地元當麻の藤田さんから**アクシバ**を教えてもらいました。写真右は葉などに毛が有り**ケアクシバ**とのこと。アクシバの漢字は**灰汁柴**で、この木を焼いた灰であく抜きをしたからだという。両種共にツツジ科スノキ属。

花弁は外側にカールし、おしべと花柱が円錐状に突き出す形になる。オレンジの部分はおしべの葯(花粉が入っている)。

サンショウソウ

同じくサンショウソウ(写真右)の名も教わりました。葉がサンショウに似るからとのこと。成る程。

イラクサ科サンショウソウ属。

ヤブコウジ(写真右)

秋に艶々しい真っ赤な実をつける藪柑子が、路傍や林床でかわいい白い花を咲かせています。地下茎で増えるそうです。ヤブコウジ科ヤブコウジ属。柑子はミカン類の意。葉が似ているから。別名**十両**。

ムラサキニガナ(写真左)

谷筋の道にヒョロヒョロと茎を伸ばして、紫色の小さな花をつけています。紫苦菜・キク科アキノノゲシ属。

ネジバナ(捩花・ラン科ネジバナ属)

登山口の初田川公園や鳥谷口古墳周辺の斜面や草地にたくさん咲いています。名の通り、花穂はらせん状にねじれています。左巻きが多いが、中には右巻きもあるので、「**ヒダリマキ**」の別名は「感心しません」と牧野博士は書いています(牧野富太郎植物記)。この花を見たら左巻きかどうか確かめてみて下さい。

もう一つの異称**モジズリ**は日本古来の染色法による紋様に由来します。陸奥国信夫(しのぶ)郡(現福島市)産でシダ植物のシノブの葉や茎の色素を使ってねじれたような模様を染めた布・衣服又はその染色法を、**もじずり(捩摺)**とか**信夫摺り(忍摺り)**と呼んだそうです。

みちのくのしのぶもぢずり誰れゆえに
乱れそめにし我ならなくに　(古今集)

の歌をひいて、牧野博士も説明しています。

野山のふしぎ ⑤ 「ヤドリギ」続編（健生会友の会の「ふれあい広場」より転載）

「ふれあい広場」に掲載した「ヤドリギ」の記事(「山と花のたより」82 号にも掲載)を読まれた吉野町の井形さんから貴重な写真が届きました。その写真ではヤドリギのそばでヒレンジャクという鳥がふんをしていますが、そのふんが鳥のお尻からひものように垂れ下がっています。

そうです。これがヤドリギの種を包む粘液の「紐」なのです。ヒレンジャクはこの「紐」をぶら下げたまま移動し、粘着性のある「種」があちこちの木の幹や枝に付着し、ヤドリギは木から木へと移っていくことが出来るのです。

ヒレンジャク（緋連雀・写真）はよく似たキレンジャク（黄連雀）と共にスズメ目レンジャク科に属する小鳥で、冬鳥として日本に飛来し、木の実を食べますが特にヤドリギの実を好むので「ほや鳥」（ほや＝ヤドリギの古名）と呼ばれたそうです。

ヤドリギはヒレンジャクの渡ってくる頃、実を熟させ、ヒレンジャクはその実を食べるついでにヤドリギの繁殖を助けて、お互いに助け合っています。

ところで桜の衰退に悩む吉野山では、桜に寄生するヤドリギは嫌われ者で、切除されていますが、少々寂しい気もしますね。

貴重な写真をお寄せ下さった井形さん、友田さん有難うございました。

以上９７ 号

ヒレンジャク（友田さん写す）